

Sakura Citizen Collaboration Team News No.5

——市民協働チーム——

今回のミーティングも庁舎を飛び出し、「喜連川社会復帰促進センター」さんで実施しました。センター側から「市役所に若手のチームがあるなら、是非見学をし、センター職員と交流を持ってみたらどうか？」との提案を受け実施にいたりしました。当日は護送車で迎えにきていただき、普段では絶対に乗れない車に乗せていただく経験ができました。



車内において、職員は受刑者になにかあってもすぐ対応できるよう、シートベルトをしなくても良いことが法律で決まっているそうです。



社会復帰促進センター 施設見学



センターに着くと、まず最初に調査官の谷垣さんからセンターの概要の説明を受けました。敷地面積は 425,891 m² (東京ドーム約9倍の広さ) を誇り、約 2,000 人の受刑者が収監されています。収容対象者は犯罪傾向の進んでいない男子で、8年未満の刑期対象者で、初犯がほとんどだということです。受刑者の犯罪のベスト3は次のとおりです。(1位：窃盗、2位：詐欺、3位：覚せい剤)

また東日本では唯一となる PFI 手法「(Private Finance Initiative)」を取る刑務所であり、「官民協働による運営」といえ、我が協働チームにとってもとても興味深い運営であると感じました。

※ PFI とは公共の施設などの建設、維持管理、運営等を民間の資金やノウハウを活用して行う手法



受刑者の部屋はエックス型の通路に並べられ、そのエックスの中心に刑務官の監視室があります。

施設見学時は、マスク着用が必須で、携帯電話等はすべて会議室に置くことが義務付けられています。施設の中には農園や作業・社会復帰に向けての職業訓練場等があり、すべての行動は班ごとに分かれて実施されます。(基本的に班は起床から就寝までずっと一緒)



部屋は個室と大部屋があり、ほとんどの受刑者は5～6人の大部屋となります。個室は模範囚が入ることができるそうです。



風呂は大浴場となり、15分間で出なくてはならないとのことでした。入浴中は一切私語厳禁となります。また高齢や障害のある受刑者は上記右側のような個室の風呂で対応するそうです。

出所時は円形の広場の前を通るそうです。これは安心感と開放感を与えるためにあえて円形にしているという説明を受けました。



最後に刑務官やPFIのパートナーとなる企業の方々と協働チームの座談会を行いました。「官民協働を円滑に行うコツは？」との質問に「企業は営利を追求するのは当然だが、それを理解した上で妥協点を見つけること。更に普段から仲良くすることがコツ。」と回答されたのが印象的でした。これは市民協働を行う上のコツと同じであり、おおきなヒントになった気がしました。



喜連川社会復帰促進センター関係者の皆様、今回は貴重な体験をさせていただき本当にありがとうございました。

next time

次回

12月24日(火)午後14:00～第2庁舎2階第1会議室

これから長期的に実施する「協働プロジェクト」の課題・チーム分けを行います。

【問】総合政策課市民活躍推進係